

野木町訪問記（おもてなしの心）

2018年の初夏のとある日、私は、栃木県の野木町を訪問いたしました。天気も良く風もなく、午後の日差しが、やや眩しい時間帯でした。この野木町は、お隣板倉町の渡良瀬遊水地を挟んで東の対岸の町であります。明和町から行くとなると渡良瀬遊水地を回り込んで行くため、その距離とかかる時間から「栃木県にある遠い町」のイメージですが、直線距離では近い町です。面積は明和町の約1.5倍の30.26km²で、人口約25,000人のこの町は、栃木県への南の玄関口とも呼ばれております。明和町と同じで、東京から約60kmと比較的近い地点に位置することもあり、「JR野木駅」をバックに都心方面からのベッドタウン化が進んでおります。また、優良な工業団地と整然とした住宅街の整備により、美しい町並みを形成しながら発展を続けている町であります。そして「花とレンガのまち 野木町」と謳っているだけに、約4.3haの敷地に、約20万本のひまわりの作付けを行っており、町の一大イベント「ひまわりフェスティバル」の際には、「ひまわり大迷路」「ふれあい模擬店」「打上花火」「歌謡ショー」や「キャラクターショー」などのイベントも実施し

ている、とても元気な町です。

真瀬町長にアポを取り、約束の5分前に玄関に入りますと、受付の女性が「お待ちしておりました。」と自らエレベーターで2階のフロアに案内してくれました。2階のフロアでは、別の男性がエレベーター前に待機しており「お待ちしておりました。」と町長室へ案内してくれました。その間に行き交う職員が、元気よく「こんにちは！」と挨拶をしてくれます。

いよいよ、町長室に入ると真瀬町長は「せっかく来ていただいたのですから記念写真を撮りましょう。」と野木町の商業ボード前に案内してくださり、一緒に記念撮影をしました。



そして、用件が終わり帰ろうとすると、真瀬町長が布袋を取り出し「フクロウ（不苦労）おみくじを

（左から 真瀬宏子町長・私・真瀬栄八副町長）

どうぞ。」と差し出してくれました。私は、袋の中に手を入れ、5 cm程度の物がたくさん入っている中から1つ選び取り出しましたら、可愛い「金色」の招福フクロウ人形でした。すると真瀬町長は「さすがですね！一番いい色をつかみましたね。」とおっしゃいましたので、「だまされませんよ！全部これと同じ物が入っているのでしょうか？」と袋の中を確認しましたら、さまざまな色の招福フクロウ人形が入っておりました。

そうして、盛り上がっていると職員が来て「先ほどの記念写真の現像が出来ました。」と渡してくれました。あまりにもスピーディーな展開に感心しておりましたら、さらに、真瀬町長が野木町のひまわりが入っている焼酎をお土産にくださいました。

ここからがまた圧巻でした！お礼を申し上げて町長室を出ると秘書らしき男性が、玄関まで誘導してくれ、玄関前では先ほどの受付の女性が深々と頭を下げて見送ってくれました。そして、玄関を出ると別の男性が、私の車の運転手に声を掛けて、玄関前に誘導しておりました。私が降りた車をちゃんと認識し、誘導するタイミングの連絡を取るという見事な連携プレーを目の当たりにし、野木町の町長を始めとする「おもてなしの心の真髓」に触れたような気がしました。

私が車に乗り運転手に確認すると「明和町長は間もなく玄関に出られますので、玄関前に車の移動をお願いします。」と声を掛けられたそうです。優良な大企業並みにきめの細かいおもてなしを受け「まさに人たらしだな」と感心し、我が町もこうした良いおもてなしが出来れば、町の良さが伝わり、ふるさと納税や移住定住者がもっと増えるかもしれないとアイデアをいただきました。

真瀬町長は、元々は教育者です。役場の職員をこれほどまでに完ぺきに教育した教育畑出身の為政者としての貫禄を、まざまざと見せていただきました。

真瀬町長様以下、職員の皆さまがたに感嘆・感激・感謝をして私の野木町訪問記のペンをおきます。

野木町役場の皆さま、誠にありがとうございました！

平成30年6月6日

明和町長

富塚もとすけ